

## 教職員向けメンタルヘルス研修会（平成24年度 第3回全学FD）

1. 企画運営：健康科学センター、基幹教育院、教務委員会
2. 実施日時：平成25年2月1日（金） 15：30～17：00
3. 場 所：総合学習プラザAMS講義室Ⅰ／伊都地区、  
旧工学部本館2階4番講義室／箱崎地区（遠隔中継）
4. テー マ：学生がよい方向に変化する時 ～大学全体で学生の主体性を高め心の活性化を促す～
5. 対 象：本学教職員（広く一般教職員：特に学生委員会委員、教務委員会委員、学部相談員、窓口職員、学生支援職員） 等
6. 趣 旨：労働災害の事例の統計を分析して発表されたハインリッヒの法則では、1つの重大な事故の背景には軽傷の事故が29、無傷災害は300あるといわれています。学生のメンタルヘルスの問題も、自己効力感を失っている高リスク学生の背景には、少数の無気力になっている学生がおり、またその背景には、主体性が十分に発揮できていない多くの学生の存在があります。一人の高リスク学生を支援するためには、一般学生を活性化させ、学生全体のメンタルヘルスを高めるアプローチが重要です。今回は、筑波大学の学生相談カウンセラーの杉江征先生に、学生支援GPからスタートしたT-ACT（Tsukuba Action Project）の取り組みについて、多くの学生にどのように波及効果があったかについてお話していただきます。特に、現在移転中である九州大学では、まだまだ未整備の伊都キャンパスにおいて、学生のQOL（Quality of Life）を高め、学生を活性化する仕組み（特にソフトウェア）を考える必要があります。郊外型キャンパスにおける学生の活性化のお話は、広く教育現場での日常の指導の中での対応力を高める際の多くのヒントがあると思われまます。
7. プログラム（伊都地区で実施、箱崎地区は遠隔でつなぐ）  
進行：健康科学センター 松下智子・福盛英明  
  
15：00 受付開始  
15：30 開 会  
  
1. 挨拶 丸野俊一（理事・副学長）  
2. データからみた九州大学の学生の心の健康（25分）  
林 直亨（健康科学センター・准教授）

### 3. 講演 (50 分)

「T-ACT (Tsukuba Action Project) : メンタルヘルス中間層の学生の主体性の発揮からもたらされる学生の心の健康」 (仮)

講師: 杉江 征 先生 (筑波大学人間系・保健管理センター学生相談室・准教授)

講師: 杉江征先生。筑波大学保健管理センター学生相談室准教授、カウンセラー。日本学生相談学会常任理事。学生相談カウンセラーとして、メンタルヘルス不調学生への個別面談や危機介入、自殺予防活動を行うかたわら、学生生活課と深く連携し学生支援 GP で T-ACT の専門委員をつとめる。全国保健管理研究集会 (神戸: 2012) で、T-ACT 活動によって学生のメンタルヘルスがどう変わっていったかについての研究を発表。

※T-ACT (Tsukuba Action Project) : 郊外型キャンパスの筑波大学。学生が何か新しいことをやってみたい、小さなことでも自分のアイデアを実行したい、という気持ちをもつ学生がいるが、その「やってみたい」を応援するプロジェクト。2008 年度より文部科学省の学生支援 GP として開始。学生が自発的な活動を展開できるように教職員が細やかにサポートする。半年間以内の比較的短期の活動 (企画の規模の大小は問わず、一回きりのイベントでも、何回かにわたって開催されるもの) を想定。講義などとも連動。

### 16:50 質疑応答 (10 分)

閉会の挨拶 上園慶子 (健康科学センター・教授・総長特別補佐)

### 17:00 閉会

※ 引き続き、希望者を対象にメンタルヘルスマニ相談会を開催します。

### 17:00~17:30 メンタルヘルスマニ相談会

精神科医、臨床心理士が、メンタルヘルスに関する学生指導の個別相談に応じます。1つのケースについて約5~10分で相談に乗りますが、じっくり話したい方は後日相談できる予約をとります。

※挨拶等担当は変更の可能性があります。

### 8. 申し込み・問い合わせ等

参加は事前申し込みをお願いします。申し込みの際に件名に「メンタルヘルス研修会参加申し込み」とお書きの上、健康科学センター松下 (kensekensyukai@ihs.kyushu-u.ac.jp) 宛に、お名前、ご所属 (職種)、連絡先 (メールアドレス)、参加希望会場 (箱崎・伊都) を平成 25 年 1 月 25 日 (金) までにお知らせください。